

PLANET vanvan



2010 Autumn
Presented by
PLANET,INC.

プラネットヴァンヴァン

プラネットとファイネットの 商品データベース相互連携

9月1日「防災の日」に
業界規模のEDI障害対応訓練を実施

もっと知りたい!

標準取引先コード

プラネット太くんの社会科見学

nepia 千のトイレプロジェクト

PLANET PLAZA

プラネット ラボラトリー

プラン&ネット

プラネットとファイネットの 商品データベース相互連携

プラネットは、酒類・加工食品業界の情報を扱うファイネットと、双方の商品データベースを相互連携することで合意し、2010年11月15日よりサービスをリリースします。今回の相互連携により、商品画像を含むデータベースとしては国内最大の商品データベースが誕生することになり、消費財流通業界の業務効率化に大きく貢献できるものと期待されます。

プラネットの商品データベースとは

プラネットの商品データベースサービス(以下、商品DB)は、1997年、日用品、化粧品メーカーの商品情報をインターネットで提供するサービスとしてスタートしました。その後、ペット業界が参加、さらに2008年にOTC医薬品メーカーのデータベースであるJSM-DB(セルフメディケーション・データベース)と連携を開始し、現在、559社、76,904アイテムの商品情報が登録されています(2010年8月時点)。

商品DBはメーカーが登録した商品のテキスト情報(商品名、商品コード、サイズなど)や、画像情報(棚割用画像、印刷用画像など)を、ニーズに合わせて自由に閲覧・ダウンロードすることができます。

複数メーカーの商品情報を、同一フォーマットでダウンロードできるため、ユーザーは商品マスタの登録・メンテナンスや、棚割システムへのデータの取り込みをスムーズに行えるようになります。また前日の登録・変更データを提供するクリッピングサービスを利用することで、マスタ情報のアップデートを自動化することも可能です。

2006年には「商品マスタ登録支援サービス」の運用を開始しました。これは商品DBを基本情報としてWeb画面にコピーし、売価等の各社固有の情報を追加入力することにより、合理的に自社の商品マスタに登録する仕組みで、卸売業、小売業の商品マスタ登録にかかる作業の効率化と速度アップを実現しています。

さらに、2009年には、オンデマンドカタログをリリースいたしました。商品DBに登録されている商品を選んで、カタログ紙面のようにレイアウトされた商品情報をエクセルデータでダウンロードすることができます。

このようにプラネットの商品DBは、ユーザーのニーズに合わせて情報の精度を上げながら、さまざまなサービスと連携できる当社のコアサービスとして成長してきました。現在では、3,200社、17,000名の方にご利用いただいています。

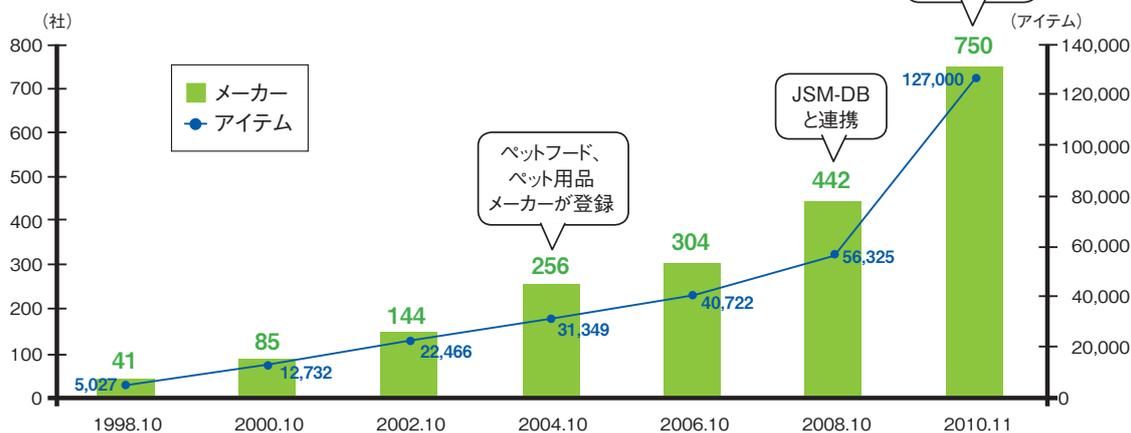
標準化の取り組みにより実現した 異業種データベースの連携

一方、株式会社ファイネットは、酒類・加工食品業界の標準VAN会社として、データ交換サービス「商品流通VAN」・「資材VAN」及び「商品情報データベース(FDB)」を提供する会社で、約2,000社が利用しています。

ファイネットの商品情報データベースは1999年、酒類・加工食品業界のメーカー及び卸売業が設立したSKDBC(酒類・加工食品データベースセンター)を発展する形で2002年から運用を開始しました。現在では208社98,727アイテムの商品が登録されています(2010年8月時点)。

近年、ドラッグストア業界では、業態の変化によりOTC医薬品類、トイレタリー用品や化粧品だけでなく、お菓子や飲料などを取り扱う店舗が増えてきました。それに伴いユーザーからは、「商品DBに食品類の商品情報も掲載してほしい」といった要

図1 | 商品データベースの登録推移



望が、数多く上がるようになりました。

また、トイレタリー用品と食品を製造しているメーカーにとっては、商品情報を登録するデータベースがプラネットとファイネットの2つになってしまうという課題もありました。

こうした状況を踏まえ、異なる業界で同じような商品データベースサービスを提供しているプラネットとファイネットは、情報交換を行い、ユーザーにとってよりよいサービスを提供する手段としてデータ連携の可能性を模索していました。しかし、データ項目の仕様が異なる2社の商品データベースを連携するのは、容易なことではありませんでした。

大きな転機となったのは、消費財流通業界における標準化を促進する目的で始まった、商品マスタデータの同期化を図る国際標準システム「GDS(Global Data Synchronization)」の取り組みです。

プラネットは、2006年度に行われたGDSの共同実装実験に、日用品・化粧品業界のメーカー、卸売業、小売業の数社とともに商品情報の登録・受領窓口として参加し、GDSが実働可能と判断されると、いち早く商品DBをGDS仕様へと切り替えました。その後、ファイネットのFDBでもGDS仕様を採用。こうして、共通仕様のデータ項目をお互いが使用することになり、初めて相互連携の可能性が見えてきたのです。

消費財流通業界の業務の効率化を目指して

卸売業、小売業において業界の垣根が低くなってきている現状で、消費財流通業界の発展のために、プラネットと

ファイネットの2社が協力することで何ができるか——。両社でさらなる話し合いを重ね、連携の第一ステップとして、双方の商品データベースを相互連携することで合意に達しました。異なる業界のVAN事業者同士の相互連携は、これまでにない画期的な試みといえます。

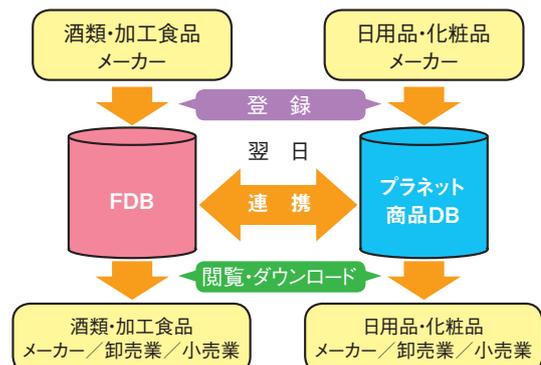
ただし、双方のデータをマッピングしてみると、FDBではサイズ情報や単品重量が必須でないため、プラネットの商品DBの必須項目と統一できないことや、GDS仕様以外の項目の定義や桁数の違いで連携できないデータがあるなど、さまざまな課題がありました。両社は一つひとつ問題を解決し、2010年11月15日に本サービスをリリースする運びとなりました。プラネットからファイネットへは日用品、化粧品、その他食品の約32,000アイテムを、ファイネットからプラネットへは酒類・加工食品など約50,000アイテムを連携します。**※図2参照**

この相互連携により、業界の垣根を越えた商品情報活用が可能になり、特にドラッグストアやGMS、スーパーマーケットなど、幅広く商品を取り揃える小売業では、一層の情報収集業務の効率化が実現されます。また、プラネットが提供する商品マスタ登録支援サービスに、酒類・加工食品の情報も取り込めるようになり、ユーザー各社の商品マスタの精度向上という点でも、業務効率化に寄与するものといえます。

今回の商品データベースの相互連携は、プラネットとファイネットにとっては第一ステップにすぎません。プラネットは今後も、消費財流通業界の業務効率化のために、より一層協力を進めてまいります。

図2 | 連携の概要

	FDBから商品DB	商品DBからFDB
対象カテゴリ	11：加工食品 12：生鮮食品 13：菓子類 14：飲料・酒類 その他のカテゴリ	19：その他食品 21：日用雑貨 23：化粧品
対象データ	テキスト情報 (PB、企画品を除く)	棚割画像 外観画像
初回連携件数	約50,000件	約32,000件



株式会社ファイネット 常務取締役

寺田 安雄さん

今回のファイネットとプラネットの商品データベースの相互連携は、業界を越えた商品情報授受の新たな流れを作るとともに、将来に向かって、より多くの効果が期待できる取り組みのスタートと考えています。今後も、プラネットとの協力により、関連業界のより一層の業務効率効果を生むことを期待しております。

いざというとき、ネットワークの災害対策は万全ですか？



株式会社プラネット
執行役員
管理本部副部長
山本 浩



株式会社プラネット
ネットワーク本部
ネットワーク管理部
寺岡 健

9月1日「防災の日」に業界規模のEDI障害対応訓練を実施

11月30日までEDIバックアップシステムを開放

2010年9月1日、プラネットはEDIサービスをご利用のメーカー・卸売業とともに、2006年以来、今年で第5回目となる大規模災害発生に備えたEDI障害対応訓練を実施しました。月初ということもあって訓練初日こそEDIバックアップシステムの接続確認訓練に参加されたユーザー様は10社に留まりましたが、11月30日までのEDIバックアップシステム開放期間に訓練を予定されているユーザー様は9月1日現在で58社、合計すると68社となります。より多くのユーザー様で障害時の対策が万全となるよう、9月1日の接続確認訓練に参加できなかったユーザー様には、開放期間内の接続確認テスト実施をお勧めします。

消費財流通におけるBCPの重要性とプラネットの対策

大地震など、何らかの大規模災害が発生した際に、もし日用品の流通がストップし、生活者に十分な商品が供給されなくなったら、社会は間違いなく大きな混乱に陥ってしまうでしょう。

消費財流通における事業継続は社会的責務であり、BCP（“Business Continuity Plan”の略、「事業継続計画」の意）は、単なる企業内の問題ではなく、業界全体で取り組むべき重要な課題です。

今日では、消費財流通における受発注等の商取引は、その大半がEDIによって行われています。プラネットのEDIサービスは日用品、化粧品、ペットフード・ペット用品、OTC医薬品などのメーカー、卸売業および資材サプライヤー1,000社強に利用されており、その通信量は毎月平均1億レコードを超えています。

(注)1レコードは1伝票行に相当します。

このように、EDIが消費財流通業界にとって不可欠な情報インフラストラクチャーとなっている状況を踏まえ、プラネットでは、いかなる事態においても「常に安全で安定したサービスを提供し、業界全体の事業継続に貢献する」ことを目指し、BCP活動に積極的に取り組んできました。

特に災害時の危機管理に関しては、首都圏データセンター内のEDIサーバー二重化をはじめ、2008年には大阪データセンターにEDIバックアップシステムを構築したほか、2006年から毎年EDI障害対応訓練を実施するなど、さまざまな対策を講

じています。

また、2010年3月には、事務所を浜松町駅前の文化放送メディアプラスビルに移転しました。当ビルはラジオ局がもつ公共的な特性から、放送事業が大災害時でも機能するように設計された非常に堅牢な建物であり、万が一の災害の場合でも、プラネットの機能が中断されることなく維持継続できるものと期待されます。

訓練は災害時のEDI接続手順を再確認する機会

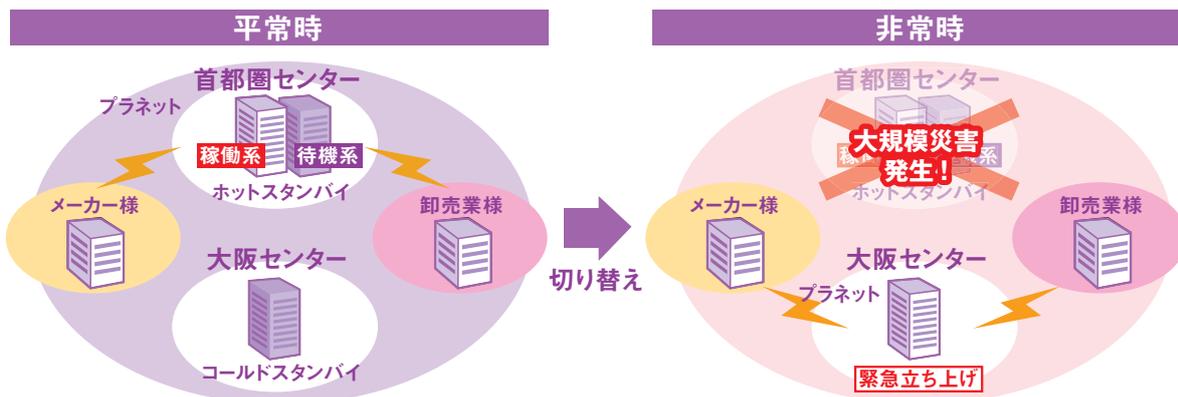
今年で5回目となるEDI障害対応訓練は、危機管理への一層の意識づけを図るため、9月1日の「防災の日」に合わせて実施されました。訓練当日は、首都圏で大震災が発生したという想定のもと、午前9時、プラネット会議室に「災害対策本部」を設置。EDIサービスの全ユーザー様への緊急連絡や、大阪データセンターに設置されたEDIバックアップシステムの立ち上げおよび接続確認の訓練を行いました。

バックアップシステムへの接続確認訓練には、EDIサービスをご利用のユーザー様10社（メーカー5社、卸売業5社）が参加しました。これまでは事前に設定情報をご連絡していましたが、今回は実態に近い訓練ができるよう、ご要望のあったユーザー様には訓練当日に設定情報を連絡。その情報に基づいて、ネットワークの接続確認作業を実施いただきました。

この日の訓練では、9社のお客様がEDIバックアップシステムにスムーズに接続でき、従来のEDIシステムと同様に通信できることが確認されました。

ただし、今回は10社中の1社様は当日中の接続ができませんでした。昨年の訓練に参加された60社のうち、実に2割以上





のお客様は接続先をバックアップシステムに切り替えた直後の通信で接続エラーが発生しています。これは、「接続手順を忘れた」、「設定方法がわからない」、「設定が漏れている」といった単純な原因がほとんどで、定期的に訓練を行えば、問題なく回避できるトラブルです。

プラネットでは今回、大阪のEDIバックアップシステムを11月30日まで開放しています。訓練当日に参加できなかったユーザー様は、いざという時にスムーズな接続ができるよう、EDIバックアップシステムへの接続確認訓練をぜひ実施ください。

アンケートに見るBCPへの意識の変化

プラネットでは訓練に先立ち、7月にEDIサービスユーザー様を対象に、BCPへの取り組み状況を調査する「第2回災害対策アンケート」を行いました。この調査は昨年から実施しているもので、今回は昨年の116社を大幅に上回る185社よりご回答をいただきました。

アンケート結果を見ると、BCPの策定状況については「策定済」が17.8%、「策定中」16.2%、「策定予定あり」6.5%、「検討中」40.5%となっており、8割以上の企業がBCPの策定を着実に進めていることがわかりました。

一方、BCPの今後の課題については、「計画策定・見直しと

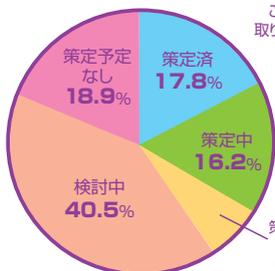
訓練が必要」45.9%、「計画策定・見直しが必要」33.0%、「訓練が必要」10.3%と、全体の約9割もの企業が自社のBCPはまだ不十分であり、策定・見直しや訓練など、何らかの取り組みが必要だという認識をお持ちのようです。

BCPが社会的に関心を集める中で、消費財流通業界全体の災害対策への意識も高まってきてはいるものの、具体的に「社内で何をどこまですればいいのか」、「他社はどのような対策をしているのか」といった情報が少なく、判断に迷われているのが現状ではないでしょうか。

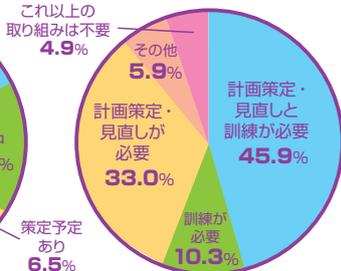
プラネットでは、業界企業のBCP対策にお役に立てられるよう、「災害対策アンケート」の集計結果概要をホームページに公開しています。さらに、アンケートにご回答いただいたユーザー様には、より詳細にデータを分析・解説した「調査報告書」をお送りしています。ぜひBCP対策を検討する際の参考データとして有効にご活用ください。なお、「災害対策アンケート」は、毎年、継続して実施していきますので、これからも引き続き調査へのご協力をお願いいたします。

プラネットは今後も、EDI障害対応訓練やアンケート調査等を通じて消費財流通業界の皆様へBCPの重要性を訴え続けるとともに、バックアップシステムの対象サービスを大幅に拡充し、システムのさらなる信頼性向上を図っていく予定です。

事業継続計画策定状況



今後の課題



▲災害対策本部

EDIバックアップシステムへの接続確認訓練についてご不明な点がございましたら、下記担当窓口にご連絡ください。

お問い合わせ先
株式会社プラネット ネットワーク管理部

Tel.……03-5962-0812(直通)
E-mail…syskan@planet-van.co.jp

標準取引先コード

プラネットのEDIサービスにおいて、納品先の指定に用いられる「標準取引先コード」。日々のメンテナンスに際しては、情報提供に多大なるご協力を頂きまして、誠に有難うございます。

およそ35万件もの当コードを閲覧・検索できる「取引先データベース」を、当社は1998年よりご提供しております。

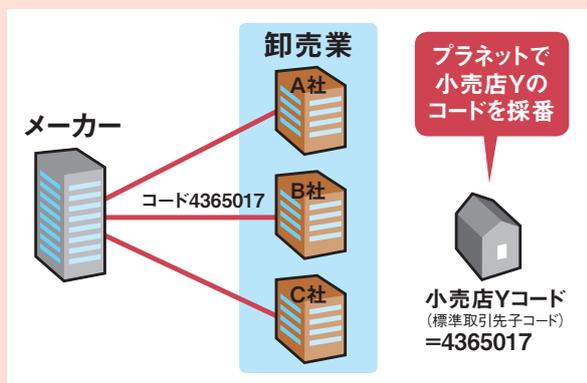
みなさまの標準取引先コード・取引先データベースへのご理解が深まり、より一層ご活用いただけますよう、標準取引先コードの概要や運用、活用事例について、何回かに分けてご紹介します。

「概要のご紹介」

標準取引先コードとは

「標準取引先コード」とは、卸売業の支店・営業所や物流センター、小売業の本社・店舗・物流センターを7桁の半角文字で示す、業界共通のコードです(注)。国際標準のGLNを除くと、標準的な小売業コードの管理はプラネットのみが行っており、EDIサービスご利用のユーザー様に標準取引先コードをお使いいただくことで、各社におけるコード変換作業を軽減し、データ交換のより一層の効率化が実現できます。

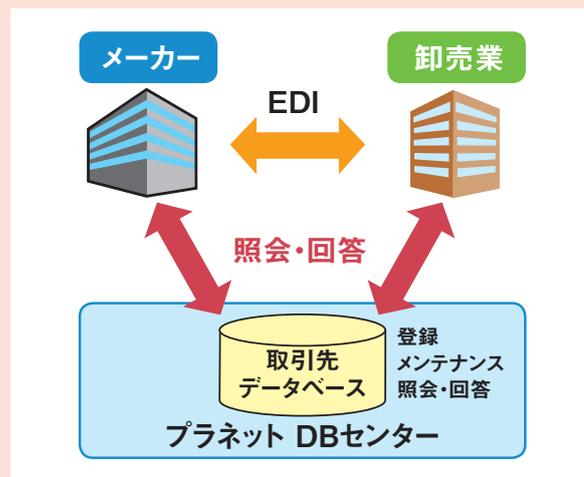
(注)卸売業のコードは、財団法人流通システム開発センターで登録された「共通取引先コード」(半角数字6桁)に半角文字1桁の枝番号をプラネットにて追加しています。



標準取引先コードの運用方法

小売業の新規開店や閉店・廃業について卸売業・メーカーのご担当者から提供いただいた情報に基づいてプラネットのDBセンターにて情報の登録やメンテナンスを行い、取引先データベースとして管理しています。

EDIご利用ユーザー様は、取引先データベースにて標準取引先コードをご確認いただけます。



取引先データベースの項目

- 標準取引先コード プラネットで採番したコード
- 名称 カナ名称、漢字名称
- 住所 カナ住所、漢字住所
- 郵便番号 7桁の郵便番号(「-」ハイフンなし)
- JIS住所コード 都道府県コード2桁と市区町村コード3桁で構成される5桁のコード
- 電話番号 「-」付きの電話番号
- 本社コード 5店舗以上の企業に設定
- 店舗形態コード 店舗形態を表す2桁のコード
- 業態コード 卸売業・小売業など

取引先データベースの登録状況

(2010年9月15日現在)

店舗形態	件数
ドラッグストア	73,473
コンビニエンスストア	52,118
GMS、スーパーマーケット	35,845
エコープ、コープ	18,262
コスメティックストア	14,641
介護・福祉施設関連、病院	13,963
ペット関連(ショップ、サロン、スクール、病院)	8,786
ホームセンター、ディスカウントストア	7,959
卸売業	10,402
その他	約115,000
総計	約350,000

取引先データベースWeb機能の紹介

●キーワード検索

電話番号が標準取引先コード、もしくは名称と住所でスピーディーに検索ができます。

●条件指定検索

「データベースの各項目」と指定期間の「新規・変更・削除」データから、複数条件を選択して検索ができます。

●小売業店舗検索、小売業本社検索

店舗形態やエリアから小売業の本部や店舗が検索できます。

●卸売業検索

名称または本社コードから卸売業の拠点一覧が検索できます。

●ファイル検索

大量のコード照会が必要な際は、CSVファイルをアップロードして照会することができます。照会用ファイルの作成方法と雛形は画面にてご覧になれます。

●センター照会、変更連絡

検索結果にコードが表示されない場合や、登録内容の変更が必要な際はDBセンターに照会することができます。

●メーリングリスト設定

ファイル検索やセンター照会・変更連絡の回答が画面にセットされると、メールでお知らせする機能をご用意しています。

●操作マニュアル

全ページ右上の「マニュアル」をクリックすると操作マニュアルがご覧になれます。ご不明な点がございましたら、ぜひご活用下さい。



取引先データベーストップ画面

DBセンターから一言

DBセンターでは、皆様からいただく情報を元に、取引先データベースへ新規店舗の登録や既存店舗のメンテナンスを行っております。皆様のご協力により、新店の情報を早いタイミングでご提供いただき、スムーズな登録に繋がっております。いつも情報提供ありがとうございます。

なお、取引先データベースをご利用いただいた際に、登録情報の実態と異なっていたり、廃業している店舗があった場合には、それらの情報をお寄せ頂ければ幸いです。また、機能面でご要望がございましたらお聞かせください。

今後もより正確な情報提供と、使いやすいサービスを目指して運営して参ります。引き続き、取引先データベースをご活用くださいますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

標準取引先コードについてのお問い合わせ先
株式会社プラネット DBセンター
Tel. 03-5962-0813
E-mail code-center@planet-van.co.jp

取引先データベースご利用のお申し込み先
株式会社プラネット コールセンター
Tel. 03-5962-0811
E-mail sc@planet-van.co.jp

DBセンターメンバー



御船
週に1回テニスで汗を流しています!



峰崎
料理レパートリーを増やす為日々奮闘中...



小倉
雑貨屋さん巡りや手芸絵を描く事が好きです。



真下
おいしい食事と読書が癒しの時間です。

プラネ...太郎の 社会科見学

イラスト/松島むう

今回
おじゃま
したのは……



王子ネピア株式会社
nepia千のトイレプロジェクト
<http://www.nepia.co.jp>

おかげさまで、3年目へ……

「nepia千のトイレプロジェクト」

家庭紙メーカーならではの視点で、2008年からユニセフと共に「nepia千のトイレプロジェクト」を展開している王子ネピア株式会社。今年で3年目となるこの活動において、支援の輪を広げるべく奮闘しているプロジェクトメンバーのお二人にお話を伺いました。

きっかけは、「うんち教室」から

我が社では、「千のトイレプロジェクト」に取り組む1年前の2007年から、首都圏で「うんち教室」を開催しておりました。これは、子どもたちにトイレやうんちの大切さを知ってもらい、自分の健康にもっと興味を持って欲しいと願って日本トイレ研究所との協力によってスタートしたものです。

小学生(特に低学年男子)のなかには、学校のトイレでうんちをする事に抵抗を感じている子が少なくありません。そこで、家庭紙メーカーという立場から、こういった事態をなんとか改善できないものかと考えて取り組みました。おかげさまで、「学校でもうんちをがまんしなくなった」「いいうんちが出るように、苦

手だった野菜が食べられるようになった」「自分の体調のことを考えるようになった」など、嬉しい声がたくさん届いております。

これまでは年に5校で開催し、一回あたりの参加児童は50名から100名でしたが、100校近くもの小学校から開催要望が寄せられるため、昨年から先生にうんち教室の運営方法を教える研修会も開始しました。その結果、のべ3,000名もの子どもたちに受講いただくことができました。今後も学校訪問と研修会の2本立てで進めてゆく予定です。

この活動がきっかけとなり、より広く世界の衛生問題に目をむけた活動として、「千のトイレプロジェクト」がスタートしました。



マーケティング本部
商品企画部 主任
nepia千のトイレ
プロジェクトスタッフ
齋藤 敬志さん



うんち教室

うんちの新発見

うんちが、どのようにできかなど、
わかりやすく説明を
します。

うんち鉛筆

うんち教室の
ラストは
系ねん土を
鉛筆に
ついで

自分だけの
「うんち鉛筆」を
1人ずつ作り
ます。

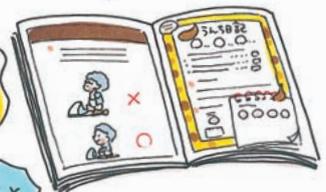


こんにちはー
今日は、うんちの
大切さを
伝えに来たよー

いっしょに
持ち歩きたい
かわいーノート♡

うんち日記

自分のうんちを
観察します。



とくと
和式トイレ使い方で!!

「nepia千のトイレプロジェクト」とは

私たちは普段当たり前のようにトイレを使っていますが、世界に目を向けると、トイレの不備や不衛生な水を飲み水として使用していることによっておなかをこわし、脱水症状などで命を落とす子どもが年間140万人を超えているというのが実状です。トイレトペーパーをお届けする企業として、何かお手伝いできることはないかと思ったのが、活動のきっかけです。

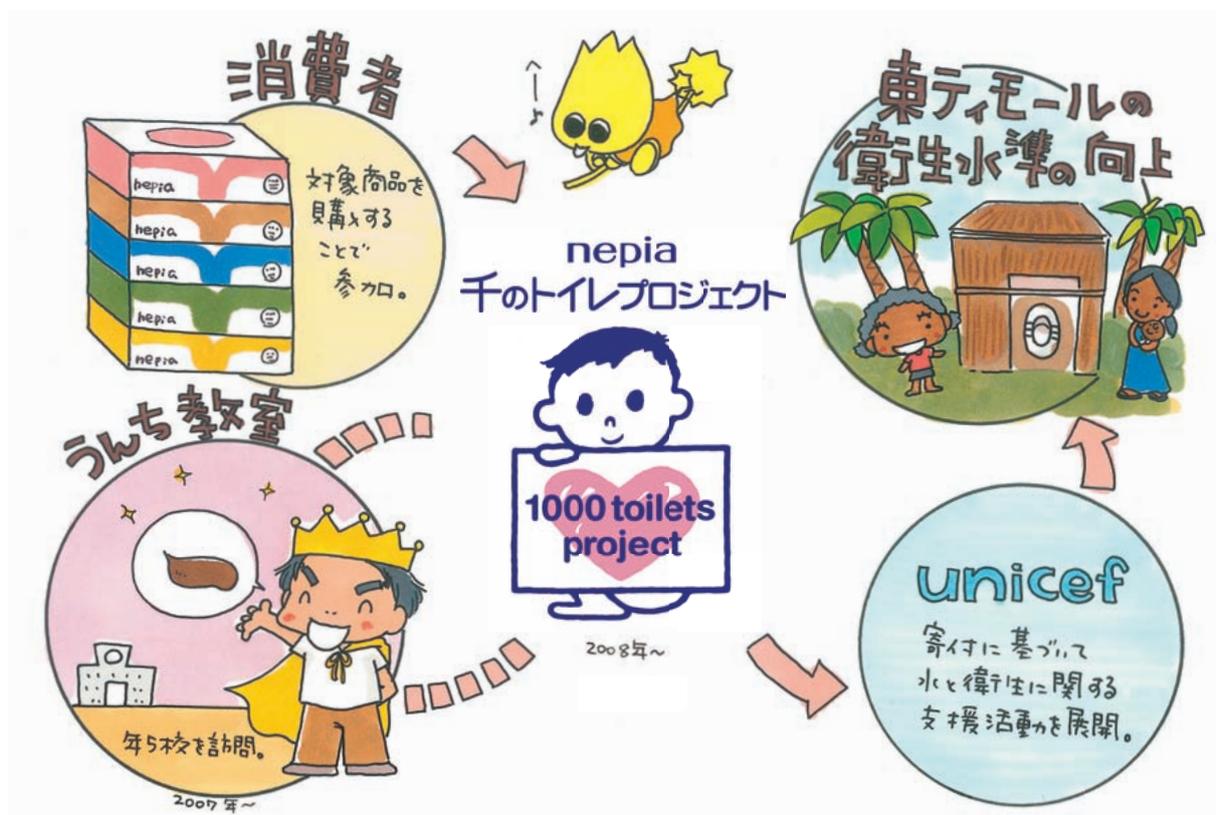
このプロジェクトでは、毎年一定のキャンペーン期間を設け、消費者のみなさまにご購

入いただいた対象商品売上の一部を我が社からユニセフに寄付し、東ティモールの“水と衛生に関する支援活動”に活用される仕組みとなっております。

ご存じのように東ティモールは、かつては独立紛争や内戦で混乱していましたが、現在はアジアで一番若い国として知られています。独立を果たしたとはいえ、衛生面ではまだまだ課題が多く、農村部人口の約65%がトイレを利用できない環境にあります(2007年ユニセフ調べ)。



マーケティング本部
商品企画部 部長
nepia千のトイレ
プロジェクトリーダー
今 敏之さん



活動を通じて

おかげさまで、2008年、2009年ともに目標である千以上の家庭用トイレが設置できました。この他、我々プロジェクトスタッフが定期的に東ティモールへ向かい、学校やコミュニティ(集落)のトイレ・給水設備の建設、修復のようすを視察したり、自ら学校で現地の子どもたちに対して「うんち教室」を開くなど、単に売上の寄付には留まらない、様々な活動を展開しております。この成果は、消費者と販売店のみなさまのご理解とご協力によって得られたものだご感謝しております。

私たちのプロジェクトは、ほんのささやかなお裾分けに過ぎませんが、それが誰かの笑顔につながっていることを支えに、今後もより多くの方々にご賛同いただけるよう活動を展開してまいります。ちなみに今年、9月1日(水)から12月31日(金)までキャンペーンを行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



※活動詳細は、「nepia千のトイレプロジェクト」ホームページに掲載しております。是非、ご覧ください！

<http://1000toilets.com/>

PLANET PLAZA

TOPIC 01

「プラネット ユーザー会2010」のご案内

11月に開催するユーザー会の概要を下記の通りご案内いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

※ユーザー会、懇親会ともに無料でご参加いただけますが、事前のお申込が必要です。

開催日時・場所

●大阪会場：11月 9日(火)13:30～17:00 ホテル阪急インターナショナル 4F 紫苑 (大阪市北区)

●東京会場：11月19日(金)13:30～17:00 東京国際フォーラム ホールB7 (東京都千代田区)

※両会場とも、17:20頃より懇親会を予定しております。

プログラム

●基調講演

テーマ：『小商圏時代のスーパーマーケット経営』～ 製配販一体となって行う消費者視点のマーケティング～
講師：全日本食品株式会社 代表取締役社長 齋藤 充弘 氏

●ユーザー事例紹介

『販売レポートサービスの活用事例』(株式会社ファンケル)

『バイヤーズネット活用で実現する業務効率化』(株式会社ココカラファイン)

●プラネットからのご報告、ご説明

【お問い合わせ先】株式会社プラネット ユーザー会事務局 Tel.03-5962-0811 E-mail event2010@planet-van.co.jp

TOPIC 02

商品データベースダウンロードフォーマット変更のご案内

P.2～3の記事でご紹介した酒類・加工食品業界の商品情報データベース(FDB)との連携開始に伴って、商品データベースのダウンロードフォーマットを一部変更いたします。

●変更日……2010年11月15日(月)より(詳細の時間は別途ご案内いたします)

●変更内容…商品情報の登録元データベースを確認できる「ソースDB区分」を追加

項番	項目名	データ内容	属性	桁数	備考
66	ソースDB区分	□□□□ (登録元が商品DBの場合) JSM□ (登録元がJSM-DBの場合) FDB□ (登録元がFDBの場合) (注)□は半角スペースです	英数カナ・半角	4	現在未使用項目 自動生成項目

【お問い合わせ先】株式会社プラネット コールセンター Tel.03-5962-0811 E-mail sc@planet-van.co.jp



ネットワーク本部
ネットワーク企画部 チーフプランナー
中村 典子

今年の夏は異常に暑かったですね。普段より冷たい飲み物に頼ったせいか、人生二度目の胃の内視鏡検査を受ける羽目になりました。「昔受けたとき、苦しくて失神しそうになったよなあ」と躊躇していたら、「鼻からの検査はそんなに苦しくなかったよ」との友人の経験談。それで気が楽になり検査を受けることができました。確かに苦しいのは最初だけ。意外ときれいな色をした胃の中を、じっくりモニタリングできました。異常も無し! 案ずるより産むが易し、とはまさに

この事です。

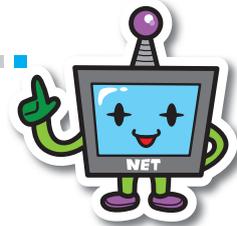
さて、今年も11月恒例の「プラネットユーザー会」を開催いたします。弊社サービスのご案内はもとより、ユーザー様によるプラネット活用事例の発表もごぞいます。同業者の「経験談」は必ず皆様のお役に立つものと確信しつつ、社員一同準備を進めております。普段プラネットに馴染みのない方のご参加ももちろん大歓迎! 皆様にお会いできることを楽しみにしております。



PLANET

プラネット ラボラトリー

LABORATORY



このコーナーでは、プラネットのサービスやお寄せいただくお問い合わせについて
毎回詳しくご紹介・解説いたします。

？ココがテーマ？ 「基幹EDI運用照会とは？」

EDIサービスご利用のみなさまをサポートする「業界イントラネット」のメニューの一つで、基幹EDIサービスの貴社通信状況やデータ件数をご確認いただけます。

日時・データ種での絞り込み検索機能に加えて、発注データの通信状況検索に特化した「発注データ検索」もごございます。メーカー様でしたら日時と卸売業名称、発注番号での絞り込みが、卸売業様でしたら日時と、発注番号かメーカー名称もしくはFAX番号で検索が可能です。

「基幹EDI運用照会」は無料でご利用になれますが、「業界イントラネット」のご利用IDはお一人につき一つのIDを発行いたしますので、業務上必要な方が複数名いらっしゃいましたら、みなさまの分のIDをご申請くださいますよう、お願い致します。

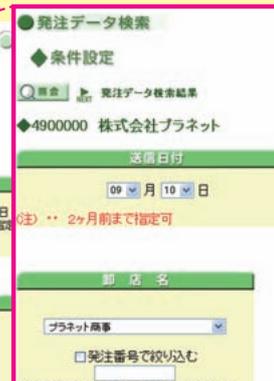
「基幹EDI運用照会」の利用ご希望の方は、プラネットコールセンターにご連絡ください。

ココに注目！

基幹EDI運用照会の確認方法

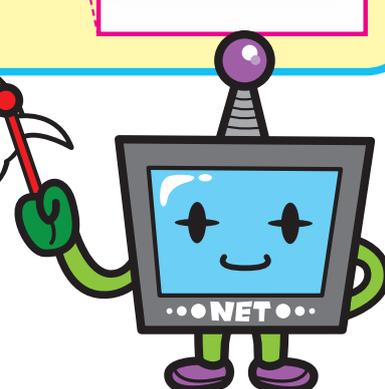


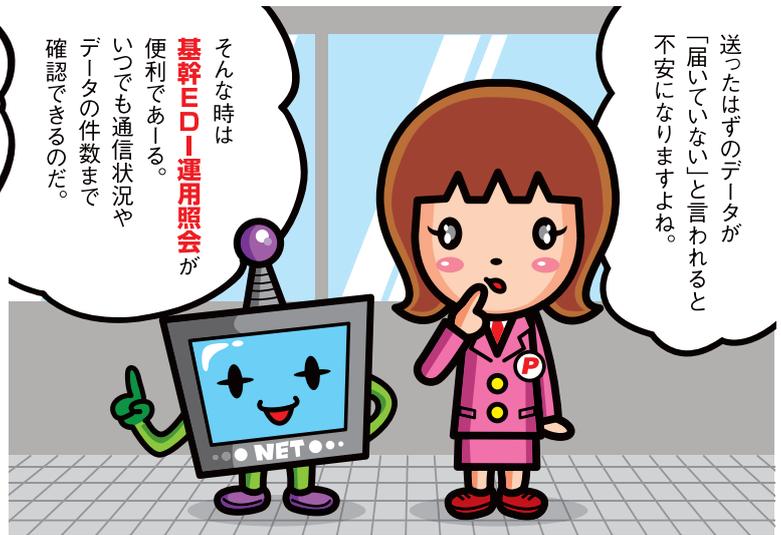
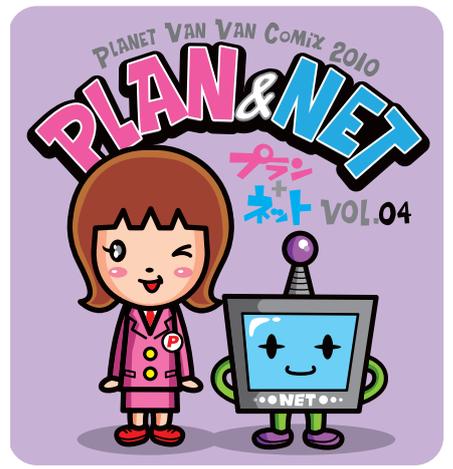
発注データ検索画面



運用照会を確認
できれば、いざという時、
安心である。

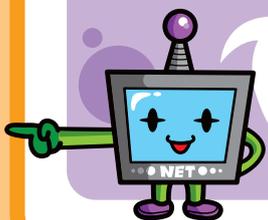
お問い合わせ先 | (株)プラネット コールセンター
Tel. 03-5962-0811 E-mail sc@planet-van.co.jp





基幹EDI運用照会 なら、
インターネットにつながった
PCから通信状況を
チェックできます。

詳しくはこのウラ、
**PLANET
LABORATORY**
をご覧ください。



PLANET 88
van van

第88号 2010年10月

発行/株式会社プラネット
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目31番
文化放送メディアプラスビル3階
TEL. 03-5962-0811
発行人/玉生弘昌
編集協力/株式会社砦書房
デザイン/太田康士 (Hitricco Graphic Service)
印刷/株式会社太平印刷社

